

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道27号 <small>しもやま</small> 下山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：京都府船井郡丹波町白土 至：京都府船井郡丹波町富田	延長	4.0 km		
事業概要					
一般国道27号は、福地県敦賀市から京都府船井郡丹波町に至る延長約140kmの主要な幹線道路であるほか、京都府下においては舞鶴地区・丹後地区と中部地域の生活や物流を担う重要な路線である。下山バイパスは、丹波町下山地区の現道が抱える、通行規制区間や安全性・沿道環境等の課題を解消するための事業であり、丹波町の地域活性化を支援する骨格道路です。計画路線は、通行規制区間を回避し、集落を避けた位置を通る延長4.0kmの2車線道路である。					
S59年度事業化		S63年度都市計画決定 (H年度変更)		H元年度用地着手	
				H3年度工事着手	
全体事業費		約121億円		事業進捗率	59%
計画交通量		5,700台/日			
費用対効果分析結果		総費用 ：(残事業)/(事業全体) 137/153億円 (事業費：117/133億円 維持管理費：20/20億円)		総便益 ：(残事業)/(事業全体) 210/210億円 (走行時間短縮便益：202/202億円 走行費用減少便益：6/6億円 交通事故減少便益：2/2億円)	
		B/C： (事業全体) 1.4 (残事業) 1.5		基準年 ： 平成15年	
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・災害への備え（現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する） 他7項目に該当 					
関係する地方公共団体等の意見					
丹波町・・・下山バイパスの事業促進、早期完成を要望（平成13年11月20日） 京都府・・・下山バイパスの整備促進を要望（平成15年7月16日）					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
沿線の丹波町・和知町の自動車保有台数・国道27号の交通量は増加している。更に、本道路周辺では京都中央テクノパークや畑川ダム周辺整備計画がすすめられており、丹波町北部地域整備計画の骨格道路として期待されている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得は、一部公図混乱や用地交渉に時間を要しているが、約97%完了しており、現在までに沿道開発計画と調整を図り0.65kmを部分供用している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
引続き、地元及び関係機関の協力を得て、関連事業との調整を図りながら、早期全線供用に向けて事業を推進していく予定である。					
施設の構造や工法の変更等					
施工にあたっては、建設発土の利用及び新技術の積極的活用等によりコスト縮減に努める。					
対応方針		事業継続			
対応方針決定の理由					
以上の状況を助案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。